

良識ある保守主義

支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

<編集発行>

支持政党なし TOKYO

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361

FAX 042-795-2726

yoshidaben@gmail.com



町田市の現状から発展に至る道

新型コロナウイルスの収束が見られる傾向と、他方でその変異株「オミクロン株」が新たに感染流行するのではないかと懸念があります。そのため、国も地方自体も感染拡大状況の疫学調査や、3回目のワクチン接種を掲げていますが、具体的な施策は欠かせないものと思います。

町田市に固有の課題では、この都市規模の内容で、町田市は人口規模が縮小する見込みを立て、教育分野で学校施設の整理縮小をさせるプランを提示しています。他方で、工芸美術館を新規に建設し、「芸術文化都市」を標ぼうしようとしています。私は、町田市が収蔵する工芸品には、内外の市民がたびたび足を運ぶほどの価値がないレベルのものだと主張してきましたが、それは、「工芸品」販売を職業としてきた経験からの判断です。

また、町田市の交通問題で主に論じられるモノレール延伸については、後段記事で論じました。また、右記の記事＝小田急の子ども料金的大幅引き下げは、町田市の将来にかかわる決断であり、政治も注目すべき施策だと思っています。



写真は横浜線ホームで直前に撮影したもの

- ★「支持政党なし TOKYO」は、支持政党を持たない、持たたくない人の意見を代弁します。
- ★「良識ある保守主義」は、既存の社会体制を前提に法治主義による秩序を重視し、柔軟な思考にもとづいて議論をする立場です。

●吉田つとむは都議選に挑戦し6位落選(15543票)市議会で過去3期連続トップ当選

<編集発行>

支持政党なし TOKYO

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361

FAX 042-795-2726

yoshidaben@gmail.com



小田急、子ども運賃が一律50円と都市化

小田急電鉄が、こどもの運賃を来年(2022年4月)から全域均一50円!に引き下げると発表し、一斉にポスターを掲示しました。



通常の子ども運賃は、大人の半額ですが、画期的な料金設定と言えるでしょう。町田駅からの運賃例(吉田が作成)

行先	大人 IC	子ども	新子ども IC
新宿	377	190	50
小田原	597	300	50
江の島	377	190	50

50円の新規子ども料金というのは、「子供用ICカード」を利用する小学生を対象に想定するものです。子どもがロマンスカーに乗る場合も特急料金を除いた部分は、この新料金が適用されます。ただし、幼児の場合は、親が2名まで無料で同行できるので直接に対象になることは少ないでしょう。

小田急電鉄が子ども運賃一律50円を導入することで、小田急沿線がとりわけ子育て世代に人気が出ることは確実でしょう。(続く)

若い世代の育成に全力をささげる

支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

QRコード

ブログ

個人HP

メールは左記を添えて送信



インタビュー生募集中
社会見学・体験勉強

70歳代も就業が必要という考え

若者にとって、将来の心配の一つは「年金制度」の崩壊です。それは、今の自分たちが年金を負担しても高齢者が年金を使い果たして、肝心の年金が無くなってしまおうという懸念があるわけです。

つまり、若者・壮年(生産年齢人口15-65歳)3人で高齢者1人を支える時代から、2人で1人を支えなければならない年齢構成になるという問題が本当はどういう構造かということに真に解消せねばならないと思います。

まず、高齢者の納税に関しては、その年齢別の納付内訳を公表する八王子市の例(町田市は公表、公開しません)によると、65歳で33歳の納税額を越えており、70歳では30歳を上回っています。この例から、若者が高齢者を支えているとは言えないことがわかります。生産年齢人口が現実的でなく、就業の一般年齢を早期に70歳まで引き上げることが現状に合っているでしょう。さらに、最大の高齢者年代(団塊世代)が、75歳まで、可能であれば80歳まで就業による収入、納税者であることを継続する施策が、国や自治体の税収、年金収入を安定させ、全世代に将来的な信頼をもたらす方法だと思っています。



- ◎ 吉田つとむは、「若者育成」を一番の政策課題としています。
- ◎ 高齢者(標準70歳)も就業するのが社会参加の一番の在り方と考えています。
- ◎ 就職氷河期、コロナ世代の安定就業を政策課題とし、中高年は若者を育成することに奉仕する。

若者支援と必要な就業形態と安定的収入

氷河期世代(1970年頃から1980年頃までに生まれ)と新型コロナ世代(2020年以降の卒業世代)は理不尽(あるいは、不条理)な状況に遭遇し、安定した就業の道を歩めなかった人が多数います。その就業に外れた人たちが定着できる職業につくことは、個人の取り組みに任せるのではなく、社会的・政治的に幅広い支援が必要な取り組みだと思います。現に、先日出席した昭和女子大学(1000人以上卒業の女子大で就職率1位)の産学交流会において、このコロナ期は、多くの大学で就職内定率が10%以上低下していることが示されました。(会場で配布の参考資料の一つ)



その対策では、氷河期世代の非就業者を対象に、国や東京都で支援事業が組まれましたが、現実には初歩的な業務、あるいは一般労務の分野に過ぎません。本来は、長期的な人間成長を図れるプログラムを提供し、50歳代以降には社会を担う層に転換してもらう必要があります。そのため、政治は、ものづくりなど新産業にその世代が参加する機会を何度も提供していくことが最重要課題だと思っています。

町田市政の今後の課題と話題

支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

支持政党なし TOKYO

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361

FAX 042-795-2726

yoshidaben@gmail.com



インターンシップが好評

石阪市長のモノレール取り組みと議会

町田市長現職の石坂丈一氏が、多摩都市モノレール延伸を目指して5期目の出馬表明をしたそうです。これまでの石阪市政において、交通施策の取り組みは極めて不十分であり、本旨に値するとは思えません。



終点予定場所のJR町田駅北口デッキ

まず、この多摩都市モノレール町田延伸については、議員の多数が主張してきた(私も主要政策に上げていた)のですが、就任当初、石阪市長はモノレールに冷淡でした。

次いで、町田市が2013年に「多摩都市モノレール町田方面延伸協議会」を作ると、議会をその主要な構成団体の形では対象に入れておらず、衆議院議員の参加に関して、比例区選出議員を役職者から外したものでした。それぞれ、議会の一般質問で取り上げ、行政の真剣味が無いとして批判し、市議会議長がトップメンバーに加わり、双方の衆議院議員も加わる体制に変更されました。全市民的な課題では、超党派の方針が欠かせません。

- ◎ 政治を若者視点でとらえ、その世代に託すべき中高年世代の責任を果たします。
- ◎ 今の政治家は、若者世代に模範を示すべきであり、私はその世代にできるだけ敬愛されるよう、心がけたいと思っています。

●吉田つとむは、組織の声を代弁するのではなく、個人の意見や願いを聞く政治を提唱

東京も保育園過剰時代が近い

2021年8月に掲載した記事を再編集しました

この間、保育園の待機児童ゼロが政治の一番の課題でしたが、事態は大きく変わってきました。認可保育所の増加(3477か所になる、1万人増で30万3千人)で東京都内の待機児童数は、すでに千人を割る人数になっており、認証保育所は減少化(37か所減、定員1400人減)し始めました。つまり、質の時代が到来しています。

町田市は、まだ待機児童(76人)がいますが、南地区などに限られ、全体ではすでに収束状況と見られます。従来ペースで保育園の新規設置を推進すると、早晚保育施設の過剰時代に至り、既存保育施設の運営・存続危機が起きることが予想されます。

すでに、ゼロ歳児、1歳児のクラスを除いては、その施設の余剰傾向が生じています。従来からこの年齢別のアンバランスは指摘してきたのですが、施設設置の拡大、拡張を推進してきた行政の責任を問い、施設運営形態の拡充を認めたり、経営の統合・連携が必要だと思っています。



保育園を訪れ、直接取材を重ねます

情報公開を条例施行時から推進

支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

QRコード

ブログ

個人HP

メールは左記を添えて送信



市内に限らず、広く見学

小学校のいじめと第三者委員会委員選任

10月下旬発行記事の文章を掲載しました

町田市では、小学生のいじめと死亡が大きな問題となってきました。当該校の校長がいじめと自殺は関係ないとしてきたことが問題となり、その状況を教育委員会に伝えていなかったということに法的な問題があるという事態にまでなっています。全国的に注目されるのは、今回のいじめが、国が配布したタブレットのチャット機能を使って行われたことでした。とりわけ、当該校は全校配布をいち早く取り組んだことで有名でした。



記事とは別の風景写真を掲載しました

遺族が真相究明を求めたことで、町田市(長)は、学識経験者や弁護士による第三者委員会を設置して、今後の調査を行うわけですが、大きな焦点の一つは、そのメンバー選定になると思います。被害当事者(遺族)の視点に立つ見地をいかに組み込むか、その配慮が不十分であれば、そこでの結論の公平性が問われ、議論の解決を見ないことが起こりかねないと思います。私は、遺族側が推薦する弁護士が1名は入って審査を行うことが合理的、道義的だろうと思う次第です。

- ◎ 吉田つとむは、①町田市に対して情報公開請求を行った最初の町田市民で、それまで一切公表・公開されていなかった市長交際費使途の一部公開を実現しました。
- ◎ 福島原発爆発事故では、町田市内を市民連携で放射線量の測定をして公表しました。
- ◎ 行政には情報公開、自分自身では自己開示の政治を追求していきます。

報酬・手当の減額、政務活動費の返還

たった1日(10月31日選挙執行)で国会議員は文書通信費の1ヶ月分を受領する問題が出てきました。政党に寄付をするというやり方が宣伝されていますが、果たして、国家の出納に戻ることなく、政治的な判断で使途が決まる政党の会計に入ることに一般の理解が得られるのでしょうか。

さて、地方議員は、報酬以外に政務活動費が支給(領収書添付)されますが、私は5月31日に町田市議を辞職しましたので、6月1日以降の分は(ルール通りに)返還の手続きを行いました。

町田市議会の議員報酬は、5月分までの議員報酬を受け取りました。この議員報酬の日割り制度は、私を含めた当時の町田市議会議員全員が賛成して決めたルールです。また、期末手当(いわゆる、ボーナス)は、5月31日に退職(当日の職務を果たし、辞職の手続き)したことで、2割をカットして支給を受けました。6月1日退職であれば、満額支給の定め(職員も同様のルール)となっています。さらに、市長と異なり、町田市議会だけでなく、どの議会の議員にも退職金制度はありません。



辞職願を議長に提出し、その場で受理される

若い世代の育成に全力をささげる
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

<編集発行>
支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターンシップの記録

第45期生が、第1期生を訪問インタビュー

吉田つとむは、学生のインターンシップを平成10年(1998年)からスタートし、20年以上の歴史の結果、現在の第45期生、及び第48期生まで連綿と研修生の受入を続けてきた数少ない政治家です。

この間の体験者は、その大半が民間企業に就職し、一定数が国家・地方公務員になっています。聞くところによると、初期の参加学生では、現在、部課長職を担う社会人も出ています。専門家では、弁護士が3人誕生し、自身の事務所を開設して活躍する人材も登場しています。人数は少ないのですが、小学校教師も、管理栄養士も現場で働いています。

ベンチャー企業の創設者(ユーグレナ社長)もあり、会社が急成長し、東証マザーズ上場後、2014年には東証1部上場を果たし、現在は、経団連審議会副議長も務める人物も出ています。他方、女性では海外に雄飛して働く元研修生が幾人もいます。中には、TVや新聞に度々登場するフェアトレード分野の有名社長もいます。大半の元インターン生は、いわゆる有名企業に就職し、堅実に社会人生活を送っていると聞いています。



- ★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、多数の体験者が実社会で活躍中。
 - ★ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。
- ◎これらのレポートは、吉田つとむの研修生で令和3年(2021年)参加の体験記です。

インターン体験記⑭松村英美里

旧白洲次郎邸見学

白洲次郎は、吉田茂首相に請われて GHQ との折衝にあたるような日本政府になくってはならない「従順ならざる唯一の日本人」という人物だった。また、妻の白洲正子は読売文学賞を2度も受賞する随筆家であり、武相荘にも沢山の書籍が置かれた書斎が印象的でした。茅葺き屋根の邸内には、次郎氏のこだわりが詰まった遺品がたくさん飾られており、彼の英国紳士の精神に想像が膨らみました。ルイヴィトンの旅行鞆やハットにハットケース、嗜んでいたお酒やたばこの数々から彼のこだわりと気品を感じ取ることが出来ました。



併設されたカフェで昼食を取りましたが、白洲家のこだわりのカレーもとても美味しくいただきました。メニューの横に白洲氏のカレーへのこだわりが書かれており、そこに目を通すのも楽しかったです。英国紳士たるものスプーンはスープを飲むためのものだからカレーはフォークで頂くとのこだわりがあったそうなのですが、その頂き方は私には少々難しかったです。白洲氏の気品ある精神と私生活が垣間見ることのできる武相荘を訪れることができ、大変良い勉強になりました。

インターンシップ推進
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ



インターン体験記②只野 里奈

町田市立国際版画美術館では、企画展「浮世絵風景画展—広重・清親・巴水 三世代の眼—」とミニ企画展「浮世絵モダン 橋口五葉と伊東深水を中心に」を見学しました。展示されている作品は版画とは思えないほど細かく描き込まれていて、思わず見入ってしまいました。最近ではコロナ禍ということでオンライン上で美術品を鑑賞することが多いのですが、実物を鑑賞することはより強い感動を得られるものだ改めて感じました。町田市立国際版画美術館の鑑賞は日本美術への関心を深めるものとなりました。こちらの美術館は世界でも数少ない版画専門の美術館です。そのような美術館を見学する機会が得られたことを嬉しく思います。

注：以下の掲載写真は、自由民権資料館を見学した際のものです。



インターン体験記③西村 彩香

本日は神奈川県相模原市にある株式会社

- ◎ 吉田つとむのインターンシップの特徴は、①募集・応募、②面接・決定、③カリキュラム作成、④訪問先交渉・調整、⑤訪問・見学・面談、⑥レポート提出というプログラムで進めます。標準では10回の研修・体験コースを組んでいます。なお、吉田つとむのインターンシップでは、政治活動の体験・参加はプログラムに入れない原則です。

若い世代の育成に全力をささげる
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

<編集発行>
支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターン体験記④只野 里奈

まなびの森保育園永福町は株式会社こどもの森グループの一員の園です。こどもの森グループの保育園はこどもが自発的に遊び、学べる環境作りや保護者の方の負担を減らすための取り組みを行い「自分の子どもを預けたい園」を目指し運営を行っています。

株式会社こどもの森代表取締役である久芳敬裕様からは、株式会社が保育園を運営するメリットや日本が抱えている問題に対して保育園ができることなどを伺いました。また、まなびの森保育園永福町園長の早川美津子様からは、ご自身の今までのキャリアや女性が多い職場ならではの良い人間関係の作り方などを伺いました。伺ったお話の中で特に印象に残ったのは、保育園は少子化や女性の社会進出、待機児童といった多くの社会問題に対応できるということです。

また、最近では公園での大声やボール遊びが禁止されるなど、こどもの遊び場が減っているというニュースをよく耳にします。その



ような状況を受け、こどもの森グループはほとんどの保育園に園庭を作り、こどもがのびのびと遊べる場を提供しています。今回のインターンシップでは、今の日本で保育園を運営することの意義を学ぶことができました。

インターン体験記④-2 西村 彩香



(前号より続き) 保育園は子どもが初めて集団生活を学ぶ場であり、保育園で得る学びは生きていく上で重要なことばかりです。保育事業は大変なことが多いと思いますが、今後の社会を担う存在である子どもと関わることでできる仕事にとても魅力を感じました。

こどもの森代表の久芳さんやまなびの森保育園永福町園長の早川さんから保育園についてだけでなく、保育事業のことや就職活動について、今後社会に出る上で大切なことなど様々なお話を伺うことができました。考え方を見つめ直すことができたと同時に、とても勉強になるお話ばかりで有意義な時間を過ごすことができました。

インターンシップ参加者大学名一覧(50音順に記載)：青山学院大、桜美林大、大原専門、神奈川大、共立女子大、慶応大、国際基督教大学(ICU)、恵泉女学園大、駒沢大、芝浦工大、首都大東京(東京都立大)、昭和女子大、上智大、白百合女子大、成蹊大、成城大、専修大、創価大、玉川大、多摩美大、津田塾大、中大、筑波大、帝京短大、東海大、東大、東京家政大、(右面に続く)

高校生から大学卒業生まで幅広く参加
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ



インターン体験記①泉 いずみ

経営者の方との面談—2つ企業訪問

まず株式会社エクシオジャパンの代表取締役・但野様と常務取締役・小出様にお話を伺いました。株式会社エクシオジャパンは、電気機械器具の関連設備保守や修理を行う電気部門と、在宅介護や住宅型有料ホーム事業の福祉部、そして不動産部と保険部で構成された会社です。起業に至った経緯や経営理念について教えていただきました。

初めての訪問先でコミュニケーションをとることが苦手な私は吉田さんに頼ってしまいそうになりましたが、吉田さんに会話の中で何か疑問を持ち素直に質問するという行為が大切なのだと教えて頂きました。

但野様と小出様も話をすることは苦手だとおっしゃっていましたが、傾聴し些細なことでも言葉にすることがコミュニケーションに繋がると教えて頂いたので次回に活かしたいです。



第49期インターンシップ生募集中！

(参加者一覧：左面からの続き) 東京外語大、東京経済大、東京女学館大、東京都市大学、東京薬科大、東洋英和女学院大、日大、東京女子大、一橋大、フェリス学院大、法政大、明大、明治学院大、立教大、早大、高校生。

* 3人以上の参加者がある大学名は水色で表示しています。

現在は会長になられた経営者と面談

次に株式会社ホンマ電機の会長・本間様にお話を伺いました。株式会社ホンマ電機は電気設備の設計・施工・修繕を行う会社です。本間会長には、何か達成するには「執念」や「情熱」が大事だといいました。0から会社を築いた方から聞くお話には説得力を感じました。



2箇所の企業訪問で一番大切だと感じたのは、自分自身について説明して伝えるということです。過不足なく簡潔に自己紹介することは容易ではありませんでしたが、自身のことを話すことで打ち解けたり、質問してもらうことでコミュニケーションを円滑にとることが体験できました。

今回は相手先の内容を事前準備なしでの面談の取り組みでしたが、訪問先や吉田さんから学んだことを活かし、コミュニケーション力を鍛えていきたいです。

第48期研修生：泉 いずみ(多摩美術大新卒)